



図書館と地域メディアの 連携による読書活動支援

佐藤 壮広 図書館政策企画委員会委員
山梨学院大学特任准教授
callsato@gmail.com

◎意義

読み・話し・書き・語りの共有で、読書が
深い思考の体験になる

読書活動 の支援

◎実践事例・現場

としまコミュニティ大学・佐藤ゼミ (2008~)

◎成果

- ・図書館通信「この本カフェ」欄の編集
- ・としまTV「オンライン書評講座・本はともだち」

〈実践現場〉 としまコミュニティ大学・佐藤ゼミ (2008~)

【2025年度ゼミ案内】

4

佐藤ゼミ

童話・絵本に学ぶ共生の知恵

～ひと、生き物、自然のつながり

講師 山梨学院大学 学習・教育開発センター

特任准教授 佐藤 壮広氏

会場 区施設

期間 7月～1月 全6回 火曜日 19時～21時

受講方法 会場 Zoom (どちらかを選択)

多文化共生時代には共生の知恵が求められます。日常生活に活かすヒントを童話や絵本から探り、読み、書き、伝え、表現するという読書体験を高めていきます。

〈成果 1〉 本の紹介欄の企画・編集

◎豊島区立中央図書館『図書館通信』

「この本カフェ」欄の企画・編集(2015~)



区民の

区民による

区民のための 本紹介コーナー

*書き手はゼミ受講生、2026.1に40杯目達成(10年継続)

この本 カフェ ①

泣いて、笑って、怒って、考えて…。
本を読むそうしたひとときは、自分づ
くりの時間です。本は、まず読む人の
もの。でも、読んだあとにそれについて気軽
におしゃべりすることで、本と自分の世界は人

へも周りへも大きく広がっていきます。区民のみなさ
ん、自分の好きな本、思い出の一冊など持ち寄って、一
緒におしゃべりしませんか。本の広場「この本カフェ」。
今号から開店です！ いらっしやいませ。本日のメ
ニューは以下の通りです。

「こたつで読みたい本」

書名：『詩のころを読む』（岩波ジュニア新書9） 著者：茨木 のり子
発行所：岩波書店 発行年月：1979年10月

詩人・茨木のり子が私たちの隣にすわり、詩の味わい方を分かりやすく語ってく
れる入門書。30年以上も前の本だが、メールやネット上に氾濫する言葉で鈍感に
なってしまった私たちの感受性を刺激し、ひとつひとつの「言葉」をもっと大切に
しなくてはという気にさせてくれる。私はこの本で、童謡「さっちゃん」の作者と
してしか知らなかった阪田寛夫や、岩田宏、吉野弘など素敵な詩人たちに会った。
コタツから出て、詩と言葉の世界へ出かけたくなる作品だ。
【古川 依子】



◎「この本カフェ」豊島区立中央図書館『図書館通信（第35号）』（2015.1刊行）
<https://www.city.toshima.lg.jp/documents/2763/vol35-all.pdf>



39 杯目

昔、「角瓶と文庫本持って旅に出る」という
コピーのTVコマーシャルがあった。お酒と本を
旅のお供にというそのセンスに痺れた記憶が
ある。本は手のひらにも乗り、鞆にも入り、いろ
んなジャンルの話を聞かせてくれる。旅はやが
て終わる。でも本は、いつでも旅に連れ出して
くれる大切な友だちだ。

今回のテーマ

旅



書名『風神雷神 Juppiter, Aeolus(上)・(下)』

原田マハ/著 PHP研究所 2019年

日本美術に興味がない方でも、おそらく俵屋宗達
の「風神雷神図屏風」を一度は目にしたことがある
に違いない。

もしも、少年俵屋宗達が信長の命により天正遣欧
使節と一緒にイタリアに降り立っていたら…？日
本の戦国時代、野望と強い志をもった少年宗達が
ルネッサンスイタリアへと展開し、様々な経験を
通し成長し、そしてカラヴァッジョとの出会いが後
に国宝となる「風神雷神図屏風」の創作へと繋がっ
ていく。史実を織り交ぜ、大胆な発想で描かれた物
語は、読者を壮大な古への時空の旅へと誘う。

⇒【田丸 信子（たまるのぶこ）】



書名『江戸の紀行文 泰平の世の旅人たち』

板坂耀子/著 中央公論新社 2011年

一般庶民が旅に出かけるようになったのは江
戸時代からと言われている。教科書には「入り
鉄砲に出女」と、関所での取り締まりが厳し
かったと書いてあるが、特に江戸後期になると
実に多くの人々が旅に出かけていたようだ。そ
の背景には、様々な紀行文の刊行、もしくは写
本で市中に出回ったという事情がある。

本書は江戸時代の紀行文の魅力余すところ
なく伝えてくれる。現在絶版であるが、区立図
書館には所蔵されているので一読をお薦めする。

⇒【渡邊 英信（わたなべひでのぶ）】



書名『生きるとはどういうことか』

養老孟司/著 筑摩書房 2023年

この本は、20年の間に養老先生が様々な媒体に
寄稿した、自身の人生思考の「旅物語」である。
講演やライフワークの虫採集で海外や日本全国を
旅する養老先生は、旅先では必ず「生きているつ
いでに本を読む」とのことだ。読書に夢中になり、
列車で乗り過ごしたり、慌てて降りて忘れ物をし
たり、また本を入れた重い鞆を持ち歩き、五十肩
になった事もあるという。

旅に集中すると、旅先で読書をしようという気には
なりにくい。しかし人生という「旅」の中では、
本を読むこともその一部であることは確かだ。

⇒【中村 伸子（なかむら のぶこ）】



寄稿者はとしまコミュニティ大学に登録して学んでいる「マナビト生」です。マナビトゼミ担当講師の佐藤壯広氏の監修のもと、毎回テーマに合わせて小説などの文学作品、絵本などの児童書、評論、実用書、エッセイ、科学に関する読みものなどさまざまな分野のおすすりめ本を紹介しています。ぜひ図書館で借りて読んでみてください。

◎「この本カフェ」豊島区立中央図書館『図書館通信（第75号）』（2025.6刊行）
<https://www.library.toshima.tokyo.jp/images/upload/75web.pdf>

〈成果2〉 地域メディア としまTVとの連携

◎ 「オンライン書評講座 本はともだち」 2020-22

- ・ コロナ危機下でも “学びの歩みを止めない”
- ・ オンラインで〈読書体験〉の共有・発信
- ・ としまTV（豊島ケーブルテレビ）の番組にコーナーを創る
- ・ 本の紹介、読書のワンポイント・アドバイスなど

File 3

2020 佐藤ゼミのねらいと成果 (3)

学んだ成果を広く発信し
さらに一歩先の学びへ



学びの成果の発信もしっかりと
【としまテレビで情報発信】

佐藤ゼミの清水悦子・辻宏子両氏は、4月17日に、としまコミュニティ大学と豊島区立中央図書館との連携企画としてとしまテレビに出演し、本の紹介を行い、読書の魅力を伝えました。コロナ危機下ゆえにオンラインでの出演でしたが、これは「区民の、区民による、世界へ向けた学びの成果発信」として、大きな一歩です。また6月6日には、としまコミュニティ大学のゼミ活動の一部を紹介する機会もありました。ゼミを担当する佐藤壮広講師が、「読む読書から行動する読書へ」というメッセージを発信しました。当日の様子は、以下のYouTube 豊島区公式チャンネル「としまなまなまるチャンネル」で視聴できます。

視聴はこちらから



2020年6月6日

「としまコミュニティ大学
マナビトから」(第1部)

「本はともだち Vo.2.5」(第2部)

<https://www.youtube.com/watch?v=GZgMTOfh17U>



学びの価値を再認識
【オンライン学習ネットワーク交流会
「今年の学びどうだった？」】

2020年度の学びや活動についてふりかえり、新たな価値をつくりだす学びにつなげる学習ネットワーク交流会は、今年はコロナ禍で集まることができず、としまテレビのスタジオからウェブ会議ツール「Zoom」を使って、講師と受講生3人を繋ぎ、今年の学びをふりかえる交流会が行われました。

「コロナ禍で、みんなで集まって学ぶことは難しいかと思っていたが、開講して学ぶ場があって嬉しかった。学べる場があることの大事さを改めて感じた。」「生まれて初めてオンラインで受講できたのは、授業の配信をサポートしてくれた同じ受講生の方々の助けがあってからこそ。サポートがなければ授業を受けることもできなかったかも。」などの感想が寄せられました。

しかし、授業が進むにつれて、次のようなオンラインの授業の難しさも感じたようです。

「画面越しでの発表は、話しをしている方の熱量の伝わりにくさや、通信環境による聞き取りにくさもあり、対面で話をするのは違う。サポートする側から、仲間意識やつながりを作

- ◎ 『としま学びスタイル発見カタログ vol.5 未来を描く力を養う 2020佐藤ゼミのねらいと成果』（豊島区文化商工部 学習・スポーツ課）2021.3 〈<https://www.city.toshima.lg.jp/documents/31561/manabistyle5.pdf>〉

◎ 読書体験・読書活動の共有へ向けて

- ・ 図書館からの情報発信はある（＝図書館だよりやウェブでの各種案内）
 - ・ 地域メディアによる情報発信もある（＝祭り、フェアなどの取材と紹介など）
 - ・ 図書館と地域メディアとの連携で〈読書体験〉の共有がヨコに広がる
 - ・ 番組化（コーナー・コンテンツ化）することでアーカイブとして蓄積できる
 - ・ 区民が発信の主体となる（＝文化施設の利用者から文化の担い手・発信者へ）
 - * ゴールの確認と共有のための人的交流（ネゴシエーション）の継続が課題
 - * 図書館各部署担当者交代の際、スムーズな引き継ぎが必須
 - * 区民参加の企画ミーティングの必要性（プロ技術者のサポートによる区民活動支援）
 - * 政策立案プロセスのさらなる可視化と区民の積極的参加
-

続けます 

図書館と地域メディアの
連携による読書活動支援

アイデアの共有と協働を一緒に！

callsato@gmail.com 佐藤壮広
